

平成30年度

広島国際学院大学自動車短期大学部と
愛知工科大学自動車短期大学との
相互評価に関する報告書

愛知工科大学自動車短期大学

広島国際学院大学自動車短期大学部と愛知工科大学自動車短期大学との
相互評価に関する報告書

目 次

I. まえがき	1
広島国際学院大学自動車短期大学部	学長 李木 経孝
愛知工科大学自動車短期大学	学長 安田 孝志
II. 相互評価実施にあたって	3
相互評価実施要領	
相互評価に関する協定書	
III. 広島国際学院大学自動車短期大学部での会議	6
会議次第（日時・場所・メンバー）	
愛知工科大学自動車短期大学よりの質問および回答	
評価・改善指摘事項	
IV. 愛知工科大学自動車短期大学での会議	15
会議次第（日時・場所・メンバー）	
広島国際学院大学自動車短期大学部よりの質問および回答	
評価・改善指摘事項	
V. 相互評価を終えて（総括）	26
広島国際学院大学自動車短期大学部	短大部長 知名 宏
愛知工科大学自動車短期大学	A L O 高田 富男
VI. あとがき	28

I. まえがき

相互評価を実施して



広島国際学院大学自動車短期大学部
学 長 李 木 経 孝

広島国際学院大学自動車短期大学部は、昭和 39 年広島電気学園短期大学として創立されて以来、一環として技術者養成に当たり、自動車工業界へ有能な人材を送り続けてきました。本学は人材育成により社会の要請に応える使命を果たすべく、短期大学の質向上に向けた自己点検評価を積極的に行っています。

平成 18 年度に一回目の認証評価(第三者評価)、平成 25 年度に二回目の認証評価を受審し、それぞれ適合の評価を得ました。認証評価の受審に先立ち、平成 14 年度、平成 22 年度には法人構成が良く似ている愛知工科大学自動車短期大学との相互評価を実施し、「建学の精神と教育の効果」「教育課程と学生支援」「教育資源」に重点化した意見交換を行い、多くの知見を得て、改善活動を行った上で、認証評価を受審することが出来ました。

本学は平成 32 年度に三回目の認証評価受審を計画しており、この度、三回目の相互評価の実施を愛知工科大学自動車短期大学にお願い致しました。

両短大とも自己点検評価だけでなく、相互評価、認証評価を重ねて教育内容と教育環境の改善に取り組む地道な活動を続けています。

相互評価では、現場・現物・現実により、率直な意見交換と情報交換を行うことができ、今回も、本学が学ぶべき項目、改善すべき項目が明確になりましたので、今後の改善活動に活かし、認証評価の適合、地域社会の要請に応えた人材育成に邁進したいと思います。

また、今後も両短大が切磋琢磨し、相互発展していくことを確認できたことも大きな成果でした。今回の相互評価にご協力いただきました関係各位に深く感謝致します。

相互評価を実施して



愛知工科大学自動車短期大学
学 長 安 田 孝 志

広島国際学院大学自動車短期大学部と愛知工科大学自動車短期大学は、今年度（平成 30 年度）第 3 回の「相互評価」を実施しました。これまで両校は、平成 14 年度に第 1 回、平成 22 年度に第 2 回の「相互評価」を実施し、互いの優れた点を学び合い、教育の質向上を進めて来ました。その具体的成果の 1 つが財団法人短期大学基準協会の第三者評価での「適格」であると考えています。これは、両校間での相互評価に基づく教育の質向上の取り組みが短期大学基準協会から高く評価された結果であると考えています。

しかし、今回の相互評価は、両校の教育の質向上に留まらず、MaaS や CASE という言葉に象徴される自動車とその産業の激変の時代に向けた両校のあり方にも及び、これまでの相互評価を通して培って来た両校の絆を一層深めて行くことの必要性を再認識させる機会ともなりました。

特に両校は、自動車製造とその関連企業が集まった地域に立地しており、これまでその恩恵を大きく受けて来たがゆえに、自動車激変の影響を最も強く受けることにもなります。今後、自動車の価値のソフト化が進めば、現在その 9 割の価値を占めるハードの割合が 4 割以下に低下すると予測されています（モルガン・スタンレー予測）。しかもそのハードの半分がコンピュータや通信機など IoT 関連機器となれば、現在の自動車の 9 割近くを占める鉄鋼製品などのハードの価値は 2 割以下になり、自動車整備技術の中身も大きく変化するものと予想されます。もちろん、こうした変化が極く近い将来、世界全体で一斉に起こることは考え難いですが、そうした激変への備えが他のどこの自動車短大よりも両校は必要と考えています。

これまでの相互評価を通して培って来た両校の絆を一層深め、両校力を合わせて激変の時代を乗り越え、他の自動車短大の参考となる成功事例を築き上げたいと考えています。

Ⅱ．相互評価実施にあたって

相互評価実施要領

1．相互評価の目的・趣旨

広島国際学院大学自動車短期大学部と愛知工科大学自動車短期大学（以下「両学」という。）は、一般財団法人短期大学基準協会より平成24年と平成27年にそれぞれ適格認定されました。その後の改善改革が行われているか検証することを目的に、両学の教育研究水準の向上を図り、社会的使命を達成するため、両学における教育研究活動の現況について相互に点検及び評価を行う。

2．相互評価の実施校と対象学科

広島国際学院大学自動車短期大学部 自動車工業科
愛知工科大学自動車短期大学 自動車工業学科

3．評価項目

短期大学基準協会より示されている下記の基準Ⅰから基準Ⅳの中から、教育内容、教育活動及び学生に関わることを中心に相互評価を行う。

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

基準Ⅰ-A 建学の精神 基準Ⅰ-B 教育の効果 基準Ⅰ-C 内部質保証

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

基準Ⅱ-A 教育課程 基準Ⅱ-B 学生支援

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

基準Ⅲ-A 人的資源 基準Ⅲ-B 物的資源

基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源

基準Ⅲ-D 財的資源

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

基準Ⅳ-A 理事長のリーダーシップ 基準Ⅳ-B 学長のリーダーシップ

基準Ⅳ-C ガバナンス

4．相互評価委員

《広島国際学院大学自動車短期大学部》

李木 経孝 学長
知名 宏 教授（学部長）
中西 和雄 教授（ALO）
楠木 良治 講師
濱本 典昭 庶務担当課長

《愛知工科大学自動車短期大学》

安田 孝志 学長
中島 守 教授（副学長兼学科長）
高田 富男 教授（学科長補佐・ALO）
掛布 知仁 教授（学生生活指導委員長）
齋藤 健 准教授（自動車課課程長）
高橋 裕介 事務局次長

5. 評価実施方法

- (1) 関係資料（自己点検・評価報告書他）の交換をする。
- (2) 自己点検・評価報告書に記載されている内容についての相互点検・評価を行う。
- (3) 自己点検・評価報告書に記載されている内容について書面で質問を送付する。
- (4) 現地調査のため、相互に相手校を訪問する。
- (5) 訪問（質疑応答）及び質問への回答書を通して、相互評価報告書を作成する。
- (6) 一般財団法人短期大学基準協会に相互評価報告書を提出し、公表する。

6. 相互評価日程

		広島国際学院大学自動車短期大学部	愛知工科大学自動車短期大学
H29	12/11	3回目の相互評価について双方の意向を確認	
H30	4/9		<ul style="list-style-type: none"> ・ 協定書、相互評価実施要領の提示 ・ 相互評価実施スケジュール案の提示
	4/11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協定書の確認 ・ スケジュール案に対する回答 	
	5/9	相互評価に関する協定書を送付	
	5/22		相互評価に関する協定書を返送
	9/3	自己点検・評価報告書など相互評価に必要な書類を送付	
	9/6		自己点検・評価報告書など相互評価に必要な書類を送付
	10/3		質問事項を送付
	10/25, 26	広島国際学院大学自動車短期大学部が訪問調査を受審	
	11/15	質問事項を送付	
	12/10, 11	愛知工科大学自動車短期大学が訪問調査を受審	
H31	3 初旬		相互評価報告書原案の提示
	3 月下旬	加筆、修正案の提示	
		相互評価報告書の作成	
	6 月上旬	相互評価報告書の公表	

広島国際学院大学自動車短期大学部と愛知工科大学自動車短期大学との
相互評価に関する協定書

広島国際学院大学自動車短期大学部と愛知工科大学自動車短期大学（以下「両学」という。）は、両学の教育研究水準の向上を図り、社会的使命を達成するため、両学における教育研究活動の現況について相互に点検及び評価を行うため、以下のとおり協定を締結する。

1. 相互の点検・評価

両学の相互点検・評価を行う。

2. 相互評価の報告書

相互評価について報告書を作成し、一般財団法人短期大学基準協会に提出するとともに、社会に対して公表する。

3. 相互評価に係る費用

相互評価に係る費用は、双方で協議する。

4. 本協定書に定めのない事項については、必要に応じて両学が誠意をもって協議する。

5. 本協定書の有効期間は、締結の日から始まり、平成31年3月31日をもって終了する。

附則

1. 本協定書は2通作成し、両学長が署名押印のうえ、各1通を保管する。

2. 相互評価実施要綱については、両学で協議し、別に作成する。

平成30年5月17日

広島国際学院大学自動車短期大学部学長

愛知工科大学自動車短期大学長

李木 経孝 印

安田 孝志 印

Ⅲ. 広島国際学院大学自動車短期大学部での会議

会議次第

実施日 平成 30 年 10 月 25 日（木）～26 日（金）
時 間 25 日 14：00～14：30 両学長挨拶等
14：30～15：30 学内見学
15：40～17：00 質疑応答 1
26 日 9：30～11：00 質疑応答 2

場 所 広島国際学院大学自動車短期大学部 6 号館 1 階 会議室
出席者 愛知工科大学自動車短期大学

安田 孝志 学長
中島 守 教授（副学長兼学科長）
高田 富男 教授（学科長補佐・A L O）
掛布 知仁 教授（学生生活指導委員長）
齋藤 健 准教授（自動車課課程長）
高橋 裕介 事務局次長

広島国際学院大学自動車短期大学部

李木 経孝 学長
知名 宏 教授（短大部長）
濱谷 克則 教授（図書分館長・前 A L O）
野吹 幸男 教授（資格取得担当）
佐々木 博和 准教授（実習場長・生活指導担当）
楠木 良治 講師（入試担当）
後藤 衆治 講師（F D 担当）
政 光 講師（広報担当）
夏明 成己 講師（資格取得担当）
岡田 秀海 課長（就職担当）
濱本 典昭 課長（庶務担当）
中西 和雄 教授（教務担当・A L O）



広島国際学院大学自動車短期大学部 会議室にて



広島ガーデンパレスにて

質問 1

年々退学者が減少しており、大変すばらしいと思います。退学を抑制する対策などありましたらお教えてください。

回答 1

1. チューターによる学生、保護者とのきめ細かな話し合いと指導を行っています。遅刻の多い学生にはチューターがモーニングコールを行うこともあります。
2. 庶務が毎週集計して全教員にメールすることで講義出席状況を全教員が把握しています。
3. 欠席日数が3を越えた学生の保護者に状況を連絡しています。（学生支援課が郵送）
4. 精神面でのケアも行っています。毎週月曜日にカウンセリングの先生に来ていただき、学生の悩み相談の機会を設けています。

◆エビデンス（参考資料）

- ・ 学生便覧
- ・ 保護者への授業欠席状況通知表

質問 2

平成28年度以降、海外留学生が増加していますが、受け入れをどのようにしておられるか、お教えてください。又、1期～3期まで受験会場が上瀬野になっていますが、主に、国内の日本語学校に通学する在留生が受験対象者でしょうか。加えて、出願の要件「本短大での授業を受けるにあたって支障のない日本語の能力を有する者」となっていますが、どれぐらいのレベルまで受け入れておられますか。

回答 2

1. 留学生の受け入れは日本人学生と同様の扱いとしています。但し、学生支援室では留学生の学生ビザのコピーを保管するなど、学生情報管理は特別に行っています。
2. 国内の日本語学校に通学する学生が受験対象です。
3. 事前面談にて日常会話ができ、質問に正しく回答してくれれば入学試験を受けていただきます。事前面談で教科書の一部を読んでいただき、日本語学校でしっかり文章を読む勉強をする旨を伝えています。

◆エビデンス（参考資料）

- ・留学生募集要領

質問 3

「ベンチマーキング活動」について詳しくお教えてください。素材となる新型車の提供はどのようにしておられますか。又、参加学生数はどれほどですか。

回答 3

1. 新型車はひろしま産業振興機構から提供されます。新型車の費用は半分を広島県が補助、残り半分はベンチマーキング参加企業が分解部品を購入することで賄っています。
2. 参加学生(車両分解)は専攻科の1年生と2年生です。今年1月は7名で実施しました。
3. ひろしま産業振興機構は車両分解を地場の自動車会社に依頼していましたが、学生教育の一環、経費節減を考慮し、本学に分解依頼して来た次第です。なお、本学教官の1人は、当時ひろしま産業振興機構のベンチマーキング担当という経緯もあります。

◆エビデンス（参考資料）

- ・広島国際学院 広報誌 第103号「第3回ベンチマーク活動を短大で実施」

質問 4

「自動車整備士登録試験の準備」を円滑に進めるために実施しておられる「実力試験」について、どのようなものかお教えてください。

回答 4

1. 年度毎に方法は異なりますが、実技試験免除講習会の成果向上に向けて、実力別クラス編成を行っています。このクラス分けに実力試験を行っています。
2. 実力判定は、過去の登録試験に出題された計算問題の講習会、本学の自動車整備前期末試験などの、成績(正解率)を総合判定しています。

◆エビデンス（参考資料） 特になし

質問 5

高等学校などの意見聴取を自己点検・評価活動に取り入れる必要が出てきていますが、何か良い方策があれば教えてください。

回答 5

1. 現在高校訪問などで得た情報を体系化する仕組みを持っていません。
教員は輻輳した役割を持っているため、運用しやすい仕組みをつくりたいと考えていますが、まだ、検討着手前段階です。
2. 現状は高校訪問、専門学校を訪問した教員の出張報告や、運営会議でのトピックス報告に留まっている状況です。

◆エビデンス（参考資料） 特になし

質問 6

GPA 分布を各種の選考に活用されていますが、どのような基準を設定しておられるか、教えてください。

回答 6

1. GPA 評価は 29 年度入学学生から適用しました。
成績優秀学生選定(GPA 順)や専攻科受験学生選定(GPA2.5 以上など)に活用しています。

◆エビデンス（参考資料） 特になし

質問 7

毎年、卒業生のほとんどが就職しているにもかかわらず、基礎教育の「就職講座」が選択である理由はなぜですか。「就職講座」内での取り組みは面接指導や履歴書の作成など就職に対して必要不可欠であると考えます。また「チューターによる個別指導」と「就職講座」の関係もお教えてください。

回答 7

1. 就職先を決めた上で入学する学生、社会人から資格取得を目的に入学する学生など多様化しており、年齢もまちまちです。このため選択授業としています。

2. 就職講座は就職担当が全体スケジュールを調整し、企業による講話、履歴書の書き方指導、面接指導などを行っています。
3. チューターによる個人指導は生活面、学習面、資格取得面を主体に行っています。就職担当とチューターは連携して活動しており、就職講座の時間内でチューターによる生活指導、資格取得指導を行うこともあります。

◆エビデンス（参考資料） 特になし

質問 8

本学では図書館利用率の向上に困窮しておりますが、貴学で利用者が増加していることは素晴らしいことと思います。方策について教えてください。

回答 8

1. 四季おりおりに応じたイベントの開催と啓蒙活動などで意識付けを行っています。

◆エビデンス（参考資料）

- ・「秋の図書館祭り 10/17・18日」の学生への掲示事例
- ・図書室の見学

質問 9

留学生が近年急増しておられますが、授業の内容や進度はもちろん、留学生の母国における常識・マナーと、日本の常識・マナーなど生活根本の部分で齟齬が発生するのではと拝察いたします。留学生に対する指導と日本国籍の学生に対する指導の相関関係をお教えてください。

回答 9

1. 生活指導面では日本学生、留学生の差はありません。マナーなど問題発生した場合は個人指導で対応しますが、日本学生も同じレベルです。
2. 授業でも日本学生、留学生の差はありませんが、唯一留学生には日本語の授業を必須科目として前期・後期で各1時間追加しています。

◆エビデンス（参考資料）

- ・1年生前期・後期 週間講義日程表

質問 1 0

18歳人口減少を背景に外国人留学生の受入れが進んでいると思われます。現在、外国人留学生を対象とした「日本語（初級）」「日本語（中級）」が設置されていますが、今後、ベトナム、ミャンマー、ネパール等の非漢字圏の留学生の増加が見込まれ、日本語の理解力が低下した学生の受入れが現実的になってきています。日本語教育の充実に向けて系列大学と歩調を合わせた対応を検討しているとのことですが、具体的な対応策が決まっておられればお教えてください。又、留学生の教育の質の担保に向けた改善等があれば教えてください。

回答 1 0

1. 現在の在學生には「JLPT」N3以上の能力を持った学生は数少ない状況です。
このため授業が理解できない、あるいは就職が厳しい学生もいます。このため、系列大学から派遣された日本語講師の提案で、今年から授業は能力クラス分けの少人数クラスとしました。
また、トライアルとして、系列大学の留学生と一緒に「J.TEST 実用日本語検定」を系列大学で受検できるようにし、学生に受験を推奨しています。
2. 日本語学校に対しては「JLPT」N3以上の能力を持った学生を要望していますが、留学生は学生数確保のためには欠かせない存在となっており、更なる改善が必要です。
3. 自動車短大で編集発行している教科書「自動車工学演習」には留学生のために今年から漢字にひらがな標記を追加しています。

◆エビデンス（参考資料）

- ・1年生前期・後期 週間講義日程表
- ・教科書 「自動車工学演習 I」事例

質問 1 1

「学生授業評価アンケートを受けて、授業改善の取り組みを実施する」とありますが、授業改善の具体的な取り組みがあれば教えてください。また、授業評価アンケート集計結果は学生に公開されているのでしょうか？

回答 1 1

1. 短大としての共通の取り組みは無く、各教員に任されています。
2. 各教員がPDCAを回していますが、その一例として
① 授業についていけない学生に対しては授業時間外の個人指導を行う（自動車工学演習）

② 機械式燃料装置は参考項目として講義時間を大幅に削減し、コモンレールの講義時間を増加する。(ディーゼルエンジン)

3. 授業評価アンケート集計結果は過去には掲示板で学生に公開していましたが、現在は掲示していません。 掲示するように改善します。

◆エビデンス (参考資料)

- ・ 授業評価アンケート集計結果
- ・ 授業評価アンケート分析結果

評価・改善指摘事項

愛知工科大学自動車短期大学からの評価・改善指摘事項

① 質問 5 に関して

平成 3 2 年度の認証評価では高等学校などの意見聴取を自己点検・評価活動に取り入れることが要求されており、早急な対応が必要と考えます。

まずは、高校サイドからの魅力を知り、信頼関係を築くことが重要と考えており、認証評価に対して、形(仕組み)を作ってみてはどうでしょうか。現在行われている系列高校との意見交換、懇親会、高校訪問、高校の先生への説明会なども、この仕組みに取り込まれてはどうでしょうか。

② 質問 9 に関して

留学生に対する指導には大変な苦勞があると推測されます。例えばムスリムには食事をはじめ生活全般について決まりがあります。今後、留学生の増加に対応した食事や生活習慣のケアが必要と考えます。

① 質問 1 1 に関して

学生授業アンケート集計結果は公開することが要求されています。学生授業アンケートを実施されていることは確認できましたが、学内見学で拝見した「学生授業アンケート集計結果」は年度が古いものでした。最新状態への見直しが必要と判断します。学生授業アンケート集計結果と学生授業アンケート分析結果については、公開するデータとそうでないデータを区別して、図書館などで公開されてはどうでしょうか。

IV. 愛知工科大学自動車短期大学での会議

会議次第

実施日	平成 30 年 12 月 10 日 (月) ～11 日 (火)
時 間	10 日 14 : 00～14 : 20 両学長挨拶等 14 : 20～15 : 30 学内見学 15 : 40～17 : 00 質疑応答 1 11 日 9 : 30～11 : 30 質疑応答 2
場 所	愛知工科大学自動車短期大学 7 号館 9 階 会議室
出席者	広島国際学院大学自動車短期大学部 知名 宏 教授 (学部長) 中西 和雄 教授 (A L O) 楠木 良治 講師 濱本 典昭 庶務担当課長

愛知工科大学自動車短期大学

安田 孝志	学長
中島 守	教授 (副学長兼学科長)
高田 富男	教授 (学科長補佐・A L O)
掛布 知仁	教授 (学生生活指導委員長)
吉田 昌央	准教授 (教務委員会副委員長)
平野 博敏	准教授 (資格取得指導委員会副委員長)
齋藤 健	准教授 (自動車課課程長)
高橋 裕介	事務局次長
松本 吉生	庶務課課長



愛知工科大学自動車短期大学 会議室にて



愛知工科大学自動車短期大学 キャンパスにて

質問 1

自己点検・評価の組織と活動についてお尋ねします。

「評価企画 IR 室」は諸情報の収集・分析、事業の企画・推進を担い、「自己点検・評価委員会」は意思決定機関と理解しており、本学のような少人数組織で評価企画 IR 室を設置すると自己点検・評価委員会と同じメンバーになるのではと危惧しています。しかしながら、貴校の自己点検・評価報告書完成までの活動記録によると、自己点検・評価委員会と評価企画 IR 室の構成員と業務は明快に棲み分けられており、非常に参考になると考えています。この 2 つの組織の関係において、

- ①平成 27 年 4 月 9 日第 1 回報告書作成担当責任者会議に参加されたのはどのような方々でしょうか。
- ②自己点検・報告書の作成に必要な種々のデータはどこで管理されているのでしょうか、具体的な管理部門を教えてください。

回答 1 :

- ① 参加者は、自己点検・評価委員会を構成する委員（主に教員）で、評価項目の担当箇所の責任者が出席します。（「平成 27 年度自己点検・評価報告書」の P21 自己点検・評価の組織と活動を参照）主に現在の作成状況と今後の日程などについて審議します。議事内容等については、自己点検・評価委員会ならびに短期大学評価企画 IR 室会議の議事録に保冊、また、議事録は学内のイントラネットにて他の教員も自由に閲覧することが出来るようになっていきます。
- ② 具体的な管理部門は短期大学評価企画 IR 室及び庶務課です。管理場所については、評価資料室（2302）に関係資料が保管されています。

◆エビデンス（参考資料）

- ・短期大学諸規程集 3 事務組織 03-03 「愛知工科大学自動車短期大学評価企画 IR 室規程」
- ・平成 27 年 4 月 9 日第 1 回報告書作成担当責任者会議 議事録
- ・平成 30 年度 自己点検・評価報告書作成及び資料保冊 担当者
- ・平成 30 年度 愛知工科大学自動車短期大学 自己点検・評価委員会及び推進チームについて
- ・平成 30 年度 自動車工業学科 校務分掌

質問 2

自己点検・評価のエビデンス等の収集と定量評価・数値化についてお尋ねします。定量評価・数値化を積極的に進められており、評価結果が説得力のあるものとなっています。これら定量評価のために種々のアンケート調査を考案され、実施されていますが、

- ①それらは評価企画 IR 室からの提案によるものでしょうか、
- ②また、アンケート調査実行部門を教えてください。

回答 2 :

両項目とも評価企画 IR 室から提案するものもあれば、学長、学科長、各委員会、FD・SD、学務課など、それぞれ調査が必要な部署から提案されたものを、自己点検・評価委員会で検討し、教授会で審議のうえ実施しています。また、文部科学省からの通知も判読してレスポンスよく担当部署に割り振り、出来ることから実施しています。ボトムアップの場合とトップダウンの場合の両方向から運営を行っています。

◆エビデンス（参考資料）

- ・「平成 28・29 年度 自己点検・評価報告書」P17 参照

質問 3

基準 I の特記事項の「学級日誌」についてお尋ねします。学生の意見などを収集する手段の一つとして学生とクラス担任との間で「学級日誌」をされていますが、学級日誌あるいはご意見ご提案箱に寄せられた学生の意見の中で実際に採用された事例がありましたら、審議・採用の仕組みを教えてください。また、学級日誌の目的を自己点検・評価報告書の記述では「学生の意見の吸い上げ」とされていますが、他にも、学級日誌の狙いがございましたら教えてください。

回答 3

本学では、担任制度をひいています。担任は、平素より学修、学生生活、進路（進学・就職）など多岐にわたり、学生と接しています。その接点の一つとして学級日誌が活用されています。

例えば、教室におけるプロジェクタの暗さを学生が意見として提出し、その声を受けて学務課にて発光バルブを交換したことがあります。また、学生個々の日々の感想や意見も自由に書くことができるので、学生自身の学習方法の疑問点や健康管理の問題など様々な情報を学生所感から得ることができることから、より一層、緻密な指導に役立てることができています。また、日誌は国土交通省中部運輸局の監査資料の一つになっています。

ご意見ご提案箱については、学生便覧 P 59 に記載してあります。記名、無記名どちらでも可であり、改善した（する）事項については掲示板に掲示して周知して回答しています。

◆エビデンス（参考資料）

- ・1年生、2年生の学級日誌を一部参考資料として提示
- ・2018年度 学生便覧

質問 4

入学者受入れの際の、インターネット出願についてお尋ねします。

- ①インターネット出願を指定校推薦以外とされた理由を教えてください。
- ②指定校推薦以外でも従来のペーパー出願も可能でしょうか。
- ③出願全体数の中でインターネット出願の占める割合がわかりましたら教えてください。
- ④インターネット出願のディメリットとしてトラブルが想定されますが、トラブル事例がございましたら教えてください。

回答 4

- ① 指定校推薦はオープンなものではなく、直接、特定の高等学校とのやりとりとなるため、他の入試区分とは区別しています。
- ② パソコンやプリンターが利用できない環境の生徒もいるため、紙面での出願にも対応できるようにしています。
- ③ 平成 30 年度募集におけるインターネット出願対象入試の利用率は 48.0%です。
- ④ 保護者の方が手続をとられるケースが多く、手順が良く分からないと電話を頂くケースがあります。（質問のほとんどは Q & A を読んでもらえれば分かる内容）

◆エビデンス（参考資料）

- ・インターネット出願数
- ・2019 年度入試結果

質問 5

自動車整備士資格取得のための e ラーニングシステムについてお尋ねします。

e ラーニングシステム「コーカくん」の導入による、各種メリットを教えてください。特に、教員の負荷軽減メリットがどの程度なのかを教えてください。

また、eラーニングシステムのメンテナンス、機能拡充はどのように行われているのか愛知工科大学メディア基盤センターとの役割分担について教えてください。

回答 5

メリットとしては、学生個々が自分の進捗状況に合わせて学習を進めていくことができることです。個々に正解、点数が分かり、教員は学生個々の学習状況を把握することができるため、タイムリーな助言に結びつけることに活用しています。また、解説も掲載されているので独自に勉強することが出来る点です。

本学は、開学以来高合格率を維持していますが、入学生の学力レベルは年々低下傾向のため、高合格率の維持に効果があると考えています。

システムについて学生の反応は、学生アンケートという形でとっています。よくコーカくんをやれば合格できるという感想が多く見受けられることから、システムは概ね受け入れられていると考えています。

教員への負荷としては、データ入力に時間を用いることです。メンテナンスや機能拡充については、年間のサーバー使用料が8万円くらい、改良費用として年10～20万円程です。

◆エビデンス（参考資料）

- ・パソコンを用いて「コーカくん」のシステム、活用方法等を実演説明する。

質問 6

自動車整備士の受験者数についてお尋ねします。

貴校では殆どの学生が二級ガソリン自動車と二級ジーゼル自動車の資格試験を受験されており、表Ⅱ-A-10、表Ⅱ-A-11によると、二級ジーゼル自動車のみ受験される学生も居られます。二級ジーゼル自動車の受験者数と合格者数を高いレベルで維持されている秘訣（受験生への動機付け、指導法など）を教えてください。

なお、本学では学生と教員両者の負荷の関係から二級ジーゼル自動車整備士の資格を就職先、進学先から要求されている学生に二級ジーゼルの受験を薦めています。

回答 6

本学が2種目受験を奨励しているのは、最終的に1級自動車整備士を受験するための要件に適合させるためです。中には、時折、1種目受験の者が出ますが、本人の進路状況と希望に応じて認めています。基本的には2種目を受験する方針で指導しています。

合格をさせる秘訣は、学生個々で変わります。最終的には学生個々に見合った個人指導と考えますが、自分で学習する習慣が確立されているものには、コーカくんの支

援は有効と考えています。

◆エビデンス（参考資料） 特になし

質問 7

習熟度別のグループ編成についてお尋ねします。

数学 I と工学基礎において 3 段階の難易度別のテキストを作成されて学生全員の基礎学力の向上を図られています。期末試験の問題も 3 段階になるのでしょうか、また期末の成績評価どのように行われるのでしょうか。

さらに、成績不振者には補講を実施されていますが、補講の実施要領を教えてください。可能ならば習熟度の低い 3 グループの人数比率、成績不振者の人数比率も教えてください。

回答 7

定期試験は、「数学」「工学基礎」とともに統一問題（難易度レベル 1 程度）で実施しています。3 段階の難易度別テキストは、教科書中に、難易度 1（★☆☆）、難易度 2（★★☆）、難易度 3（★★★）を明記し編成されています。

成績評価については、基本的に 7 割を定期試験で配点しています。残りの評価 30% をそれぞれ小テストと授業態度で割り振り、これを各能力別のグループごとによって内容を変えて評価しています。

成績不振者への補講は数学のみです。小テストを 4 回行い、各回 70 点未満の学生を強制的に残して補講を行っています。全体的には 15 名から 20 名程の学生が補習に参加しています。工学基礎では補講は行っていません。

◆エビデンス（参考資料）

- ・平成 30 年度版 基礎数学
- ・平成 30 年度版 工学基礎

質問 8

広報活動および入試事務の業務についてお尋ねします。

入試・広報委員会は 7 名で入試関連業務、広報関連業務を企画・推進をされ、パンフレット作成、模擬授業への出向などを行われ、業務負荷は非常に大きいと推測されま

- ① 入試・広報委員会のメンバーには事務職員も含まれているのでしょうか、

- ② 学生募集の高校訪問は専属または兼任の職員を配置されているのでしょうか。
- ③ 入試・広報委員会と入試広報課との業務の棲み分けを教えてください。

回答 8

- ① 今年度までは事務職員は含まれていませんでしたが、評価企画 I R より指摘を受け来年度から 1 名参加することになっています。
- ② 専属は配置していません。自動車工業学科の教員と入試広報課を中心とする事務職員で高校訪問を行っています。
- ③ 入試・広報委員会のメンバーは、模擬授業、出向説明会、オープンキャンパス計画立案、入試問題作成等を主に行い、事務系は、各種パンフレット、募集要項、入学関係、入試説明会などの業務を行なっています。ほぼ両者間で業務の棲み分けができています。

◆エビデンス（参考資料）

- ・愛知工科大学自動車短期大学 平成 30 年度組織図
- ・平成 30 年度 愛知工科大学自動車短期大学の各委員会構成及び職務分担
- ・「平成 28・29 年度 自己点検・評価報告書」P5 参照

質問 9

女子学生の入学数増加のための方策についてお尋ねします。

オープンキャンパスに参加した女子生徒が「自分の将来像を容易に想像できる」環境づくりを狙いとし、在学女子学生のボランティアによるプレゼンテーションなどをされていますが、

- ① 具体的にはどのようなプレゼンテーションをされているのでしょうか。
- ② 在学女子学生のボランティア活動は P.64 の「努力の成果」(P Y E)にどのようにカウントされるのでしょうか。

回答 9

年々自動車整備士を目指して入学してくる学生が減少しています。自動車に興味を示す女子学生の入学者増加を考え「女子のための整備士体験コース」を設けたのがスタートです。

- ① プレゼンテーションの手法としては、オープンキャンパスにて「女子のための整備体験コース（女子限定）」コースを設置し、そのコースに女子在学学生を配置しています。参加女子高校生に学内案内をしたりタイヤの脱着やオイル点検などの基本的な作業を通して、自動車の楽しさや夢をえがけるようなオープンキャンパスコースとしています。女子生徒の参加者は比較的保護者同伴の場合も多く、女子在学学生

と話し合えることで保護者も安心していただける一面もあるようです。

- ② 女子学生のボランティア活動は、ほとんどがオープンキャンパスの応援です。1日1回2時間以上応援すると1ポイントとなります。その他のポイント項目も合わせて10ポイント以上になると表彰される制度となっています(学生便覧 p 33 参照)。平成28年度は24ポイントを取得した1名の女子学生がP Y E表彰を受けました。補足ですが、女子学生専用のロッカールームが用意されています。女子学生専用のロッカールーム内は、姿見、ソファ、机、冷蔵庫、湯沸かし器、電子レンジ等が完備されています。

◆エビデンス (参考資料)

- ・2018年度 学生便覧

質問 10

学生支援の特記事項の職場体験実習と P.42 学生の卒業後評価についてお尋ねします。

2年生の夏休みを活用した「職場体験実習」は参加学生のアンケートから、大変貴重な体験で、卒業後の社会人活動の基礎を磨くことができると確信いたします。また、企業、短大、学生の関係も一層深まるものと推測されます。

前述 P.42 の学生の卒業後評価「卒業生の就労実態等に関する調査」と「職場体験実習」(学生の印象&企業の印象)の両者の関係についてどのようなお考えをお持ちなのでしょう。(職場体験実習に参加した学生が就職先で高い評価を得るなどの相関関係の有無など)

回答 10

職場体験実習(インターンシップ)の目的は学生と企業のマッチングを図ることと、学生の学習意欲向上、社会人としてのマナー涵養などを目的としています。インターンシップ後のアンケート結果を見ても、学生たちの満足度は高く、インターンシップの目的はほぼ達成されていると感じられます。また、企業側のアンケート結果からも好意的な意見が多く、卒業後の正式な受け入れ前に、職場の先輩と良好な人間関係を構築できるので、この取り組みが歓迎されている様子が見えます。インターンシップ後は、学生の授業に対する取り組み姿勢にも改善が見られ、インターンシップ前に比べて一層、真摯に学習に取り組む学生が増えるようにも感じます。

自己点検評価報告書の P43 表Ⅱ-A-15 卒業生に対する満足度に表れているように2012年よりも2017年のほうがすべての項目に上昇が見られます。ちなみにこの調査は当該年次より過去5年間に本学卒業生を採用いただいた企業を対象としており、本学が就職内定先へのインターンシップを始めたのが2013年(平成25年)であるこ

とを鑑みれば、2012年のデータはインターンシップ未実施、2017年のデータはインターンシップ実施となるため、このことから卒業生に対する満足度にはインターンシップを行った効果の一環が表れているのではと推察します。

◆エビデンス（参考資料）

- ・「平成 28・29 年度 自己点検・評価報告書」P43 参照

質問 11

各種資格試験（学生便覧 P. 41）についてお尋ねします。

各種資格試験のガイダンス、補講、eラーニングシステム「コーカくん」に加え、再チャレンジ制度を導入するなど、積極的に学生支援をされています。各種資格試験のうち、技能実習を伴う講習会は主催者に委託された貴校の教員が実施されているのでしょうか、それとも外部委託されているのでしょうか。また、将来はどのようにお考えなのか教えて下さい。

回答 11

再チャレンジ制度は、再度チャレンジをする時に学生にかかる経済的負担を軽減するサービスをキャリアセンターが担当しています。

技能実習を伴う講習会は、外部と内部と分けて実施しています。中古車、フォークリフト、損保です。それ以外の講習は、内部有資格者で実施しています。

「キミの未来への扉を開くカギ 資格を取ろう」という資料を入学時に入学生及び保護者へ配布し案内しています。

◆エビデンス（参考資料）

- ・2018 年度 学生便覧
- ・資料「キミの未来への扉を開くカギ 資格を取ろう」

評価・改善指摘事項

広島国際学院自動車短期大学部からの評価・改善指摘事項

① 質問 1、2 について

貴校の自己点検・評価の仕組みが整備され、粛々と実行されている状況が大変よくわかりました。特に「評価企画IR室」は自己点検・評価の要であり、本学も認証評価に向けて、早急に組織を立ち上げる必要があり、本学の参考となりました。

教職員は輻輳する多くの業務を抱えており、人的資源の制限から、IR室委員と自己点検・評価委員との兼任は避けられず、委員の負荷は少なくない状況と推察されます。この状況の中で、IR室委員と自己点検・評価委員との業務の棲み分けにつきましては、状況を教えていただきましたが、各委員の負荷の軽減について ご検討されておられるのでしょうか。既に具体的な施策をお持ちでしたら、ご指導いただきたく。

② 質問 6、11 について

自動車整備士資格取得、各種資格試験にeラーニングシステムを活用し、学生の学習意欲向上と学習成果の向上を図るとともに、教員の負荷軽減にも寄与されており、大変素晴らしいと思います。本学に於いても、一部eラーニングシステムを導入いたしましたが、システム担当教員1人の負荷となっており、拡大展開が難しく、外部委託などを検討している状況です。

貴校に於かれましても、長年に亘り、システム構築、改善、データ更新などを、外部委託を含めて実施されていると伺いました。予算化の際には費用対効果の指標が必要となりますが、費用対効果の指標をどのように設定されているのでしょうか。

③ 追加

貴校で実施されている「2年生職場体験」「入学時の保護者説明会」「教室日誌」「努力の成果」「卒業生の就労実態調査」などなど、参考となる活動を多数実施されている状況を現場・現実で確認させていただきました。本学も機会を捉えて、仕組みの整備と業務改善、効率化を進めてきましたが、前回2回目の相互評価からの貴校の進化の度合いに感銘を受けた次第です。

教職員組織によるPDCAでは捉えることが困難な、新たな発想が貴校の進化の源と推測されますが、どのような仕組み、あるいは方法で発想されているのでしょうか。

また、繰り返しになりますが、これら活動を実施する上で、資源確保が必要となりますが、その資源確保の優先順位付けはどのように行われているのでしょうか。

V. 相互評価を終えて

広島国際学院大学自動車短期大学部
自動車短期大学部
短大部長 知名 宏

今回、愛知工科大学自動車短期大学と3回目となる相互評価を行いました。愛知工科大学自動車短期大学は系列の大学があり、その構成が本学と似通っているため、抱えている課題には共通のものが多いと思います。このため、お互い率直に意見交換や情報提供の場を持つことは非常に有意義なものと考えます。

近年の急速な少子化、4年制大学への進学率向上、自動車整備士を目指す学生の減少などの逆風の中で、愛知工科大学自動車短期大学は高い学生充足率を維持されており、そのノウハウを学べる貴重な機会を頂き、深く感謝致します。

本学は2020年度には新しい認証基準での「認証評価」の受審を控えており、相互評価は大変重要な位置づけとなっています。今回の相互評価では過去2回の「第三者評価」で頂いたご指摘に対し、我々がどのように改善してきたか、仕組みが継続機能しているのか、今後対策すべき項目、不足している項目を愛知工科大学自動車短期大学の実務経験者の目により、細部まで確認していただきました。

さらに、愛知工科大学自動車短期大学の仕組みを拝見させていただき、参考となる多くの事例を学ぶことができました。

相互評価は認証評価と異なり、相互の生々しい実態、紙面に表せない悩みなどを本音で話し合うことができ、有意義な意見交換と情報交換をすることができました。

今回の相互評価で得た知見は、地域環境、教職員環境などが異なることから、そのまま本学の仕組みに取り込むことは難しいと思いますが、知見一つ一つについて(何のために実施している)を踏まえ、(どのように実施している)の部分を、本学で実施可能な仕組みに取り込んでいきたいと考えています。これにより、2020年度の「認証評価」での「適合」に確実に結び付くもの、本学学生の教育の質向上に寄与するものと考えています。

今回の相互評価にご協力いただいた、両短大の関係者、皆様方にお礼申し上げます。

相互評価を終えて

愛知工科大学自動車短期大学
自動車工業学科
A L O 高田 富男

広島国際学院大学自動車短期大学部と愛知工科大学自動車短期大学の相互評価は3回目を迎えることになりました。平成14年に第1回相互評価を行うにあたり、広島国際学院大学自動車短期大学部は、本学と同じような系列の大学があり、設置構成が似通っているところから相互評価が始まったと聞いています。私が直接係ったのは2回目からですが、前回は一教員として大学の教育活動、組織、運営を知ることができました。また、今回はA L Oとして、短期大学基準協会の第三者評価の第三クールにおける基準Ⅰから基準Ⅲに沿った内容を確認できたことは、大変有意義なものになったと思います。

今回の相互評価を終えて感じたことは、普段当たり前のことのように運営していることであっても、改めて問われると回答に窮することもありました。また、相互に良いところを学ぶことができ、評価のための評価ではなく、交流のための評価という面が大きかったように思います。今回の取り組みはピアレビューの精神による相互発展を期するものであったように感じます。

今、短期大学は少子化の波を受け存在意義が厳しく問われています。特に自動車関係の業界においては、自動車に搭載される自動運転システムやCASE、MaaSへと進化する時代を迎えています。自動車検査（車検）においては、自動ブレーキ等が使用時に確実に機能維持されていることが重要であるため、2024年より車載式故障診断装置を活用した検査（OBD検査）が開始されます。これら先進技術に対応した教育カリキュラムを順次構築し、教育の質向上に努めることで、学生募集活動にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。

今回の相互評価を実施するにあたりご協力いただいた方々にお礼を申し上げるとともに、第三クールの認証評価受審に向けた自己点検活動に取り組んでいきたいと思っています。

VI. あとがき

今回で両学の相互評価も3回目を無事終えることができました。これもひとえに相互評価に携わった両学の教職員のお陰であると感謝申し上げます。今後も両学は一層の交流を深め、自動車短期大学としての社会的責任を果たすとともに、教育の質の保証に向けた取り組みに努力していきたいと思えます。

◆ 広島国際学院大学自動車短期大学部

相互評価委員	李木 経孝	学長
	知名 宏	教授（学部長）
	中西 和雄	教授（ALO）
	楠木 良治	講師
	濱本 典昭	庶務担当課長

◆ 愛知工科大学自動車短期大学

相互評価委員	安田 孝志	学長
	中島 守	教授（副学長兼学科長）
	高田 富男	教授（学科長補佐・ALO）
	掛布 知仁	教授（学生生活指導委員長）
	齋藤 健	准教授（自動車課課程長）
	高橋 裕介	事務局次長

広島国際学院大学自動車短期大学部と愛知工科大学自動車短期大学との
相互評価に関する報告書

発行日：2019年7月

発行：愛知工科大学自動車短期大学

〒443-0047 愛知県蒲郡市西迫町馬乗 50-2

Tel 0533-68-1135

印刷：竹田印刷株式会社

〒466-8512 愛知県名古屋市昭和区白金一丁目 11-10

Tel 052-872-1488
